有効期間 審査会運営の見直しや執行体制の充実を図る 内に認定できず

介護認定の更新手続き

して欠かせないものとなっ ている。 昨年8月からの一 治体が運営するサービスと (民主・無所属クラブ) 介護保険制度は、自 竜太郎

るが、遅延の原因と今後の 果は原則申請から30日以内 | ったことが、遅延の増加原 を聞きたい。また、認定結 認定までに要した平均日数 る、 更新申請件数の急激な 内に出されなかった件数と、 に通知することとなってい 増加に十分に対応できなか とともに、執行体制の充実 因と考える。 の運営の見直しに取り組 今後は、介護認定審査会

聞きたい。

において、有効期間内に認 定結果を出すことができな|整を行い、 に向け関係部門と協議・調 遅延件数の削減

年間で、介護認定の結果通|といった対策を講じてきた |申請から認定結果を通知す|ていく。 ||効期間の制度改正に起因す |が、昨年8月以降、認定有 は、平均66・3日であった。 査会の増設や業務の人員増 るまでに要した日数として かった件数は7186件で、|及び遅延日数の短縮に努め これまでも、介護認定審 質問 図書館システム統合 利便性の向上を図る 節男 本市の4つの市民図 ていく。 (市民クラブ藤沢)

知が介護保険証の有効期間|

迎 活

新たな交通手段として期待される民間送迎

出しすることで利用者はふ を聞きたい。 用方法が異なり、利用しづ

きたい。 支援機能をあわせ持つ図書 市民活動、青少年活動等の

使用している図書館情報シ 間の延長などが図れること よる利便性の向上、開室時 の一本化やブックポストに することにより、利用方法 ステムを市民図書室へ導入 **答弁** 現在、市民図書館で

の今後のあり方について聞 るようさまざまな取り組み 館もあるが、本市の図書館 かにするための図書館とな **えると考えるが、市の見解** していることが最大の特長 らいとの声がある。同じプ | 室がそれぞれの役割を担い また、他市では生涯学習、|の人が、学びや活動の拠点 を進めていく。

市内全域にサービスを提供 じた利用ができ、人生を豊 としてライフステージに応 と考えている。今後も全て 各市民図書館と各市民図書 また、本市の図書館 一体的な運営により

基金等の制度創設を 子どもの貧困対策

から、費用面も含め検討し

組んでいる。本市でもさま 解を聞きたい

らの支えを得るために、ク

C

第 直近の値である平成

り、現在の目標を掲げてい

28年度の実績としては、基 ることから、本市の目標も

|成は可能であるのか聞きた 削減するとしているが、達

| ネ実施率の向上などのエネ エネルギーの普及率や省エ

ルギーミックスの実現によ

目標達成は若干高いハード 約2・6%の削減となり、 準年の平成2年度に対し、

見直しを進めていく。 |国の目標を踏まえたものに

(ふじさわ湘風会) | ざまな財政的支援を行って

|して、他市では基金を創設| どもたちの未来は地域全体 | ためには、地域・社会から し、学習支援や子ども食堂、 質問 子どもの貧困対策と 学習塾代の助成などに取り ら、基金や寄附制度の創設 している。地域の方には、 で支える必要があることか

いる一方、困難を抱える子 | 答弁 子どもたちの未来の の支えが必要であると認識 |も必要と考えるが、市の見| ラウドファンディングを活

学びや活動の拠点を目指す=総合市民図書館 ている。 まざまな形で尽力いただい あると考えている。 用し、計画に位置づけた事 育て家庭への支援活動にさ や、地域子どもの家での見 業を実施することは有用で 新たな基金や寄附制度を活 の策定に取り組んでおり、 守り活動など、子どもや子 貧困対策に関する実施計画 コーナーへのボランティア また、広く地域・社会か 現在本市では、子どもの

策実行計画に位置づけられ

質問

藤沢市地球温暖化対

(藤沢市公明党)

松

賢一郎

考えるが、見解を聞きたい。

本計画は令和4年度

本市の目標も見直すべきと ている。この目標を踏まえ、

た温室効果ガスの削減目標

|める予定である。改定に当 | 定作業を令和3年度から始 までの計画としており、改

は、令和4年度までに4% たっては、国が、再生可能

これまでも子育てふれあい

温室効果ガスの削減

|比で26・3%削減するとし

実現可能な目標を

方法と考えられることから、 |既存基金の活用を含め、基 金・寄附制度について検討 用することなども、一つの ルと認識している。

能で達成感が得られる目標

テレワー

PO法人・大学等と連携す

また、市民・事業者・N

和12年度までに平成25年度 いく。 実現可能な目標として、今を設定できるよう検討して |難な状況と考える。 国では 質問 目標達成は極めて困 ることで、より一層実現可

心理を理解した上で、行動|**ことから、事業所へのバッ**|果的な支援を検討していく。 b, 取り組みを注視し、より効 り組みなどが進められてお 市としては、これらの ツ | ク環境の整備等の課題につ | などの理由から、

刻な人手不足に陥っている などの労働環境により、深

答弁 平成29年度に実施し |行うべきと考えるが、 見解 原田 学習支援等に活用を 分身口 ボ

の採用が困難」とする回答 |た事業者調査では、従業員 |きつさ」が多かった。介護 | 支援として活用することに |「賃金の低さ」や「仕事の|**不登校児童・生徒への学習** が最も多く、その原因は 人材の確保、定着に向けた 不足の理由としては「職員 一ついて、教育委員会の見解 ット「OriHime」を、 ションを実現する分身ロボ 自然なコミュニケー (アクティブ藤沢)

|な人材の参入を促進する取 |研修や、外国人などの多様 ている。一方、国や県では、 ットの導入支援などを行っ |する法人に対し、介護ロボ 助成や、介護のしごと相談 市独自の施策としては、介 介護未経験者に対する入門 別養護老人ホーム等を運営 護職員初任者研修受講料の 会を実施するとともに、特 生徒にとっては、分身ロボ 個人情報管理やネット びたい」という不登校児童・ き重要な課題と捉えている。 上に力を入れて取り組むべ 答弁 不登校児童・生徒へ を聞きたい。 つになると考えることから、 ットの活用は学習支援の一 「授業に参加したい」「学 の学習支援は、これまで以



不登校児童・生徒への学習支援として期待される分身ロボット

を支えている。交通空白地 を抱える本市においても有 効と考えるが、市の見解を ナッジ理論の活用を 市民の市政参画促進 (市民クラブ藤沢) |の変容を促す、いわゆるナ|**クアップや市独自の対策を** ば、検診に行かない市民の ティブとするために、例え また、効果的なインセン |低賃金と長時間・過密労働

る利便性の向上や、乗り合 携し、バス路線の新設によ さらなる交通サービスの拡 | ジ理論を用いた政策を展開 段の導入という視点をもち、| える。また、他市ではナッ んできた。今後も、地域の れば、よりわかりやすく、 通サービスの拡大に取り組 いタクシーの運行による交 性に応じた新たな交通手 これまでも地域と連 |欠であり、全ての事業に共|この理論の研究を進めなが 市民の市政理解も進むと考 |**通するインセンティブがあ**|ら、具体的な仕掛けを検討 |市民の市政参画が必要不可 地域の活性化には、

していく。

自治体があるが、本市でも ッジ理論を取り入れる先進

を聞きたい。

| ズに応じた新たな交通手段 入することは、地域のニー な仕組みを交通空白地へ導 CT技術を用いたシステムるが、この理論を活用し、 や民間送迎を活用した新た|インセンティブに心理的要 大を検討していく。 また、AIを搭載したI 促せると考えるが、市の見 診率を向上させた事例があ 素を組み合わせることで、 市民の市政参画をより強く することで、がん検診の受

タクシーの運行は市全域を ため、このシステムと競合 に取り組むきっかけづくり らず、人手が足りないため するなどの課題が大きいと | として、インセンティブは | に入所者を受け入れられな サービスの対象としている として期待できる。一方で、 域活動、環境貢献活動など 解を聞きたい。 市民が健康増進、

が導入しているAーを搭載

また、他市の介護事業者

ることにより高齢者の移動|考えている。

重要であると認識している。一い状況がある。介護現場は、

イサービス送迎車に活用す したICTシステムは、デ 考えるが、今後の取り組み

について聞きたい。

今後の最重要課題であり、

質問 高齢者の移動支援は

(藤沢市公明党)

東木 久代

市独自の対 (日本共産党藤沢市議会議員団) 確保 策を

庁内横断的に共有し、取り 掛けを研究し、その結果を

入れることを検討していく。

市民に有益な行動を促す仕

さまざまな分野において、

|などの介護施設では、ベッ ドがあいているにもかかわ

(1) 特別養護老人ホーム

見解を聞きたい。 用することについて、 ロボットをテレワークに活 いのある職員などが、分身 を取得している職員や障が | る。本市では、働き方改革 ミュニケーションが取れる | についても研究していく。 いて検証していく。 質問 育児休業、介護休業 **合弁** 在宅でも職場とのコ 市の |行い、分身ロボットの活用 中に試行する予定であり、 | 職員のテレワークを今年度 の取り組みの一つとして、 |を活用する企業がふえてい クを行う際に分身ロボット さまざまな視点から検証を